

## 柔道の国際化と礼法に対する関心

### —英国を中心に—

マイケル・カラン

英国バース大学（博士）

柔道は、1800年代に、エドワード＝バートン・ライト（Edward Barton-Wright）をはじめとする歴史的人物によってイギリスへもたらされた。バートン・ライトは、日本のシステムを紹介するために、谷幸雄をはじめとする数名の日本人柔道家をイギリスに招き、音楽ホールにて、日本特有の巧みな技術を披露させた。

1906年、E.C.D. ローリングス（E.C.D. Rawlings）はケンブリッジ大学トリニティ・カレッジで、柔術クラブを始めた。発足当時のメンバーは、25人であった。

同じく1906年、小泉軍治がイギリスを訪れ、1918年には武道を教えるための同好会をロンドンに設立した。それが「武道会」（Budokwai）である。武道会のメンバーは、主にロンドンに住む日本人によって構成されており、設立当初の議事録は、全て日本語で書かれていた。1918年5月の議事録において、「柔道」という言葉が初めて登場した。

これらの歴史的背景によって、イギリスに柔道が広まっていったのである。

柔道は武道であり、武道におけるマナー・アンド・エチケットは、武士道における道徳的行動の一つの要素である。武士道とは、武士たちの口伝によって固守されてきた規律である。

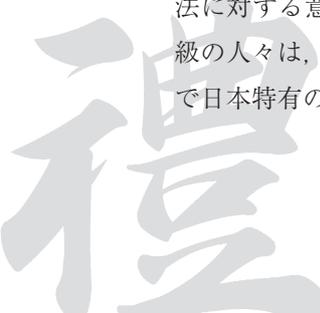
武士層は日本の比較的高い階級であり、1900年代から1960年代辺りまでのイギリスにおける柔道もまた、上流階級の人々によって好まれていた。

小泉軍治は、柔道の一つの武道芸術として見ており、武道会では、柔道以外にも、生け花、なぎなた、合気道、剣道といった武芸の習得を推奨していた。小泉は、漆器作りにも精通しており、自分自身を芸術家として認識していた。彼のいくつかの作品は、ロンドンにある、ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館（Victoria and Albert Museum）に展示されている。

小泉は、ヨーロッパで生活をするにあたり、出来る限り、武士道に従って振舞っていたようである。マナー・アンド・エチケットは、武道会では極めて重要であり、この規律はトレバー・レゲット（Trevor Leggett）をはじめとする、彼の門下生たちによって受け入れられていた。彼の門下生の多くは、イギリスの有閑階級の人々であり、英国紳士として育てられてきた。そのため、英国紳士としての適切なマナーや振る舞いに対する感覚意識が高かった。

歴史的に、英国紳士は特定地域の国王の使臣であった。忠誠の報酬として、土地や称号が与えられ、郊外に大きな家を構えることが出来た。彼らは、剣を持ち、誇りを持っていた。しばしば争い事は、決闘によって決着をつけなければならなかった。もともとこれは、剣によって行われていたものであるが、後に拳銃が導入され、夜明けに決着がつけられていた。

上流階級の人々は、イギリス産業革命の後、市街に移動したが、それでも大きな家に住み、マナーと礼法に対する意識を持ち続けていた。これは1800年代後期、ヴィクトリア朝時代によく見られた。この階級の人々は、下級階級に比べ、裕福であったがために、娯楽に費やす時間もあった。それで、音楽ホールで日本特有の技術を鑑賞することができたし、武道会のような海外の文化に触れることができる集まりに



も参加することが出来た。

従って、英国紳士にとって、小泉の教えにあるマナーの感覚は、受け入れられやすかった。

日本では、武士の時代、彼らはその特権として、人を刀で切ることができた。剣の腕が立つ者は、その仲間や、他の階級の者から、最高の敬意を持って扱われていた。武士は、他の武士に敬意を表さなければ、時には命を落とすこともあると心得ていたし、また、面目を潰すと切腹をしなければならないであろうことも理解していた。この尊敬の念があるがゆえに、行動を取り決めるうえで、強いマナーの規律が影響を及ぼしていたし、またそれが生きる術でもあった。

今日の国際スポーツとしての柔道において、トップクラスの試合で、選手間の実力には大きな差は見られない。たとえどんなに強い選手でも、最高のコンディションで試合に臨まなければ、いつでも投げられる可能性があることをわかっている。それゆえに、ハイレベルな試合において、最高のコンディションで闘う選手の間には、高い尊敬の念が存在するのである。武士たちがお互いを尊敬することでマナーの規律が生まれたように、柔道においても、同じことが言える。尊敬の念は畳の上のみならず、畳を下りたところでも、マナーの規律をもたらす。

筆者のこれまでの経験によると、多くのとてもレベルの高い柔道家は、お互いに最高の敬意を払っており、また良いマナーを見せている。しかしながら、比較的低いレベルの選手を見ると、激しくきつい練習をしていないため、その尊敬の意識は磨かれていない。それゆえに、彼らの普段の生活の中では、レベルの高い選手のようなマナーを見ることは、なかなかできない。

1965年、小泉は、イギリス柔道界への貢献に限界を感じ、自ら命を絶った。一方、トレバー・レゲットも、老いのため、練習の場を提供することから、徐々に身を引いていった。この頃になると、英国紳士の礼儀作法になじみのなかった労働者階級の人々の入会希望が殺到した。しかしこれらの新たな入会者には、生涯を通して武道の本質を究めるといふ、日本的芸術家としての手本となるものが、もはやなかった。

この時期に、イギリス柔道界において、二つの大きな動きがあった。一つ目は、柔道が東京オリンピックにおいて採用されたことで、他の競技と共に、国際的スポーツとして認識されるようになっていったことである。さらに、ヘーシンク（Geesink）が神永を相手に勝利したことが、ヨーロッパ人の考えを変えた。彼らは、日本柔道のそのすべてにおいて、それほどまでに高い敬意を示す必要はないと考えるようになっていった。二つ目は、イギリス政府が、スポーツ機関を設立し、スポーツに資金提供をしたことである。彼らはジェフ・グリーンソン（Geoff Gleeson）を、柔道のナショナルコーチとして指名した。グリーンソン氏は、講道館で柔道を学んだ経験があるにも関わらず、新たな観衆のために、柔道をより西洋化する必要があるという意見を持っていた。この哲学は、彼の著書『Judo for the West』（1967）の中に見ることが出来る。このように、マナー・アンド・エチケットをはじめとする武道の本質は、柔道の日本的な部分として見なされていて、流行の先端を行っていた60年代のロンドンでは、蔑ろにされていたのかもしれない。こうして柔道は、武道というよりも、むしろスポーツとして見られるように変化していった。この動きは、主にイギリスのスポーツ機関が促進していたが、一方で、国際柔道連盟（IJF）も、チャールズ・バルマー（Charles Palmer）の指揮のもと、1972年のミュンヘンオリンピックで柔道を競技種目に戻そうと（東京の後、メキシコでは、柔道は採用されなかった）、これを支持していた。

スポーツ的要素が重きを占めるようになっていく中で、柔道エチケットに対する考え方は、次第に形だけのものへと儀式化されていった。1950年代、その流れを拒んだ一つのグループがあった。BJA（British Judo Association）によって支配されていた武道会と決別し、大谷松太郎の指揮のもと、ライバル組織となるBJC（British Judo Council）が立ち上げられたのだった。BJAは柔道がスポーツ化していくことに



前向きで、そういった動きを促進していた国際柔道連盟と提携しており、さらにはイギリスのスポーツ機関からの資金提供を得ていたことで、BJAとBJC、これら二つの組織の違いは、次第に両極化していった。一方、柔道の要素に関わりの深い、伝統的な武道に焦点を当てていたBJCは、1960年代に出始めたロシアの柔道と対照的な、日本の柔道スタイルを強調すると共に、マナー・アンド・エチケットにも重きを置いていた。

近年、BJCとBJAは歩み寄っているものの、未だに二つの組織は、独自の体制を維持している。オリンピックなどの国際的な試合への参加権を得るためには、BJAのメンバーになる必要があるため、ほとんどの選手たちはBJAに加入している。そして、BJCはエチケットの指導や、形の習得に力を入れている。

前述の通り、武道のマナー・アンド・エチケットは、武士が苦難に耐えてきたことや、彼らの戦いの手腕に対する尊敬の念から生まれたものである。BJAには、イギリスの中の最も強い選手が、そして、BJCには、エチケットを教える優れた指導者が存在するが、イギリスにおいて、マナーを唱えることに関しては、指導が不十分であるように感じられる。

イギリスでは、厳しい練習環境があり、そこには選手間の深い尊敬の念が存在するが、マナーの指導は乏しいと言える。そしてまた、武道エチケットに関して深い理解を持った指導者はいるものの、彼らの生徒が、マナーにつながる尊敬の念を抱くまでの、厳しい練習やレベルの高さを持っているかといえば、そうではない。

ハイレベルで厳しい練習環境を持ったクラブや団体の中で、率先してエチケットを指導していくことが、今後のイギリス柔道の発展における課題である。そうしてエチケットを身につけたハイレベルな選手たちの行動や振る舞いは、他の選手たちの見本となり、格闘技の世界における礼儀の価値を理解させる手助けとなるだろう。

柔道ルネサンス運動は、これらのハイレベルな練習環境の中において、見てとることができ、次の世代に良い柔道を引き継いでいくために、重要な意味を持っていると言える。

禮

# The Internationalization of Judo and the Attention for Etiquette - Focusing on the UK

Dr Mike Callan

President

International Association of Judo Researchers



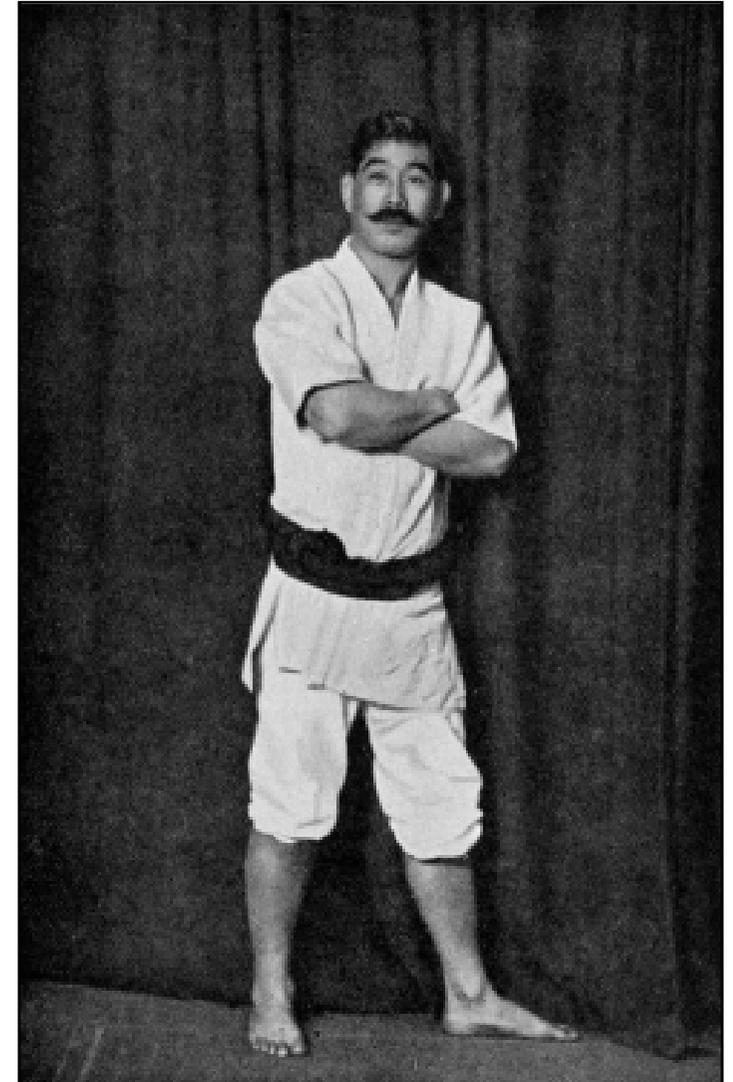
# Edward Barton-Wright



- Jujitsu in 1800s Japan
- 1800年代、日本で柔術を学ぶ
- “Bartitsu”
- Sherlock Holmes
- シャーロックホームズの中に出てくる、「バーティツ」の創始者
- Brought Yukio Tani to England
- 谷幸雄ら日本人柔道家をイギリスに招く

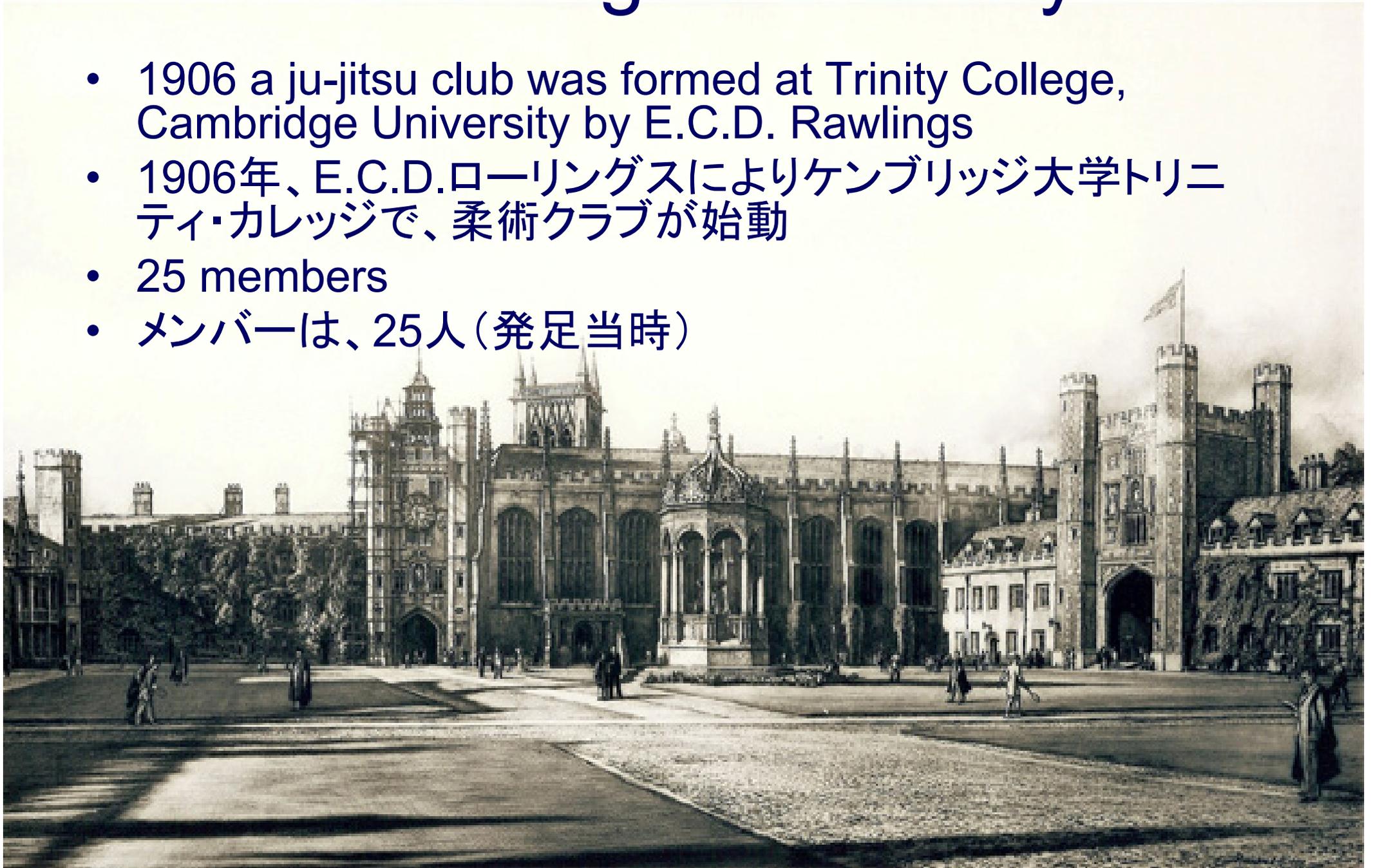
# Tani Yukio

- 1900 Arrived in England
- 1900年、渡英
- Toured the Music Halls as a variety act
- 柔術を披露して、各地の劇場を回った。
- First instructor at the Budokwai
- 武道会の初代師範



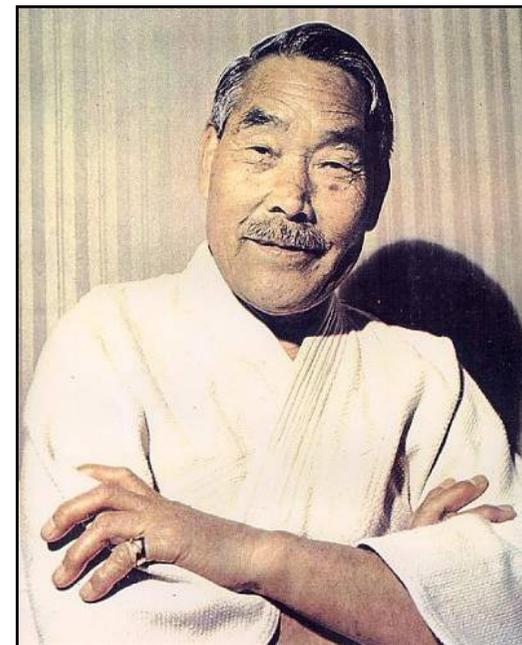
# Cambridge University

- 1906 a ju-jitsu club was formed at Trinity College, Cambridge University by E.C.D. Rawlings
- 1906年、E.C.D.ローリングスによりケンブリッジ大学トリニティ・カレッジで、柔術クラブが始動
- 25 members
- メンバーは、25人(発足当時)



# Koizumi Gunji

## The father of British Judo

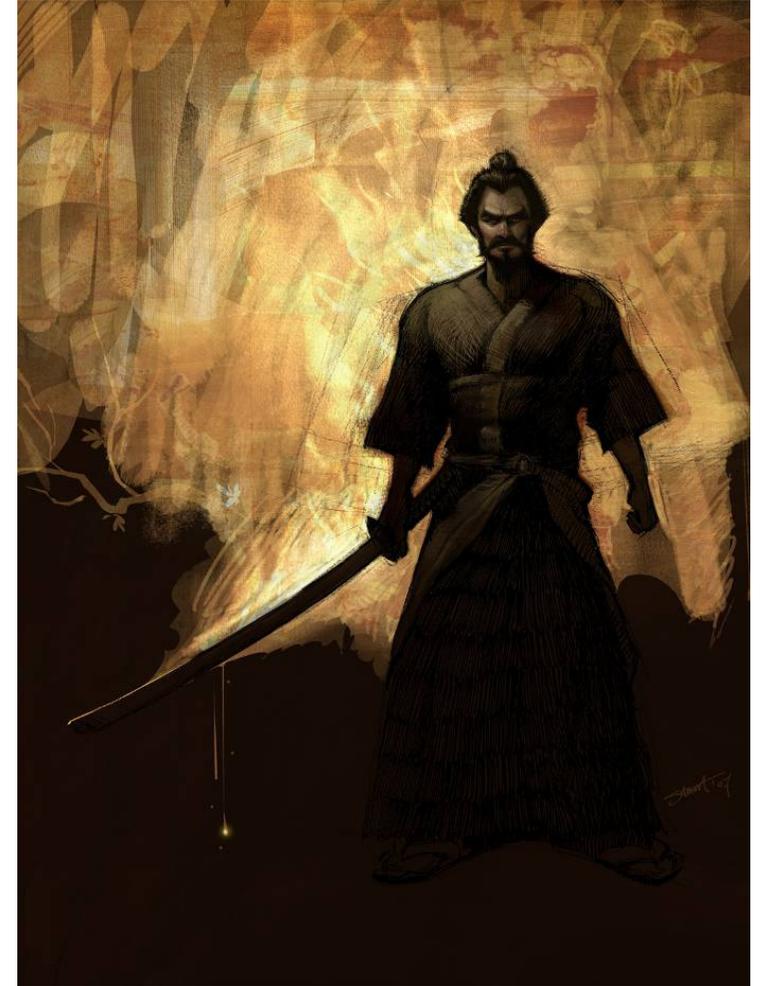


- 1906 Came to England
- 1906年、渡英
- 1918 Founded the London Budokwai
- 1918年、武道会を設立
- Originally a Japanese cultural society to teach budo
- 武道を教えるための同好会（設立当初）
- May 1918 The word judo first appears
- 1918年五月、「柔道」という言葉が登場
- The start of the internationalization of judo in the UK.
- これらの歴史的背景によって、イギリスに柔道が広まる



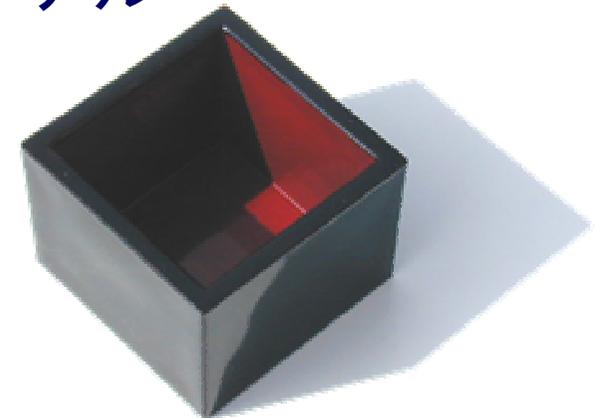
# Judo is a budo

- Attention to budo etiquette is part of bushido unwritten code
- 武道における道徳的行動は、武士たちの口伝によって固守されてきた規律である。
- Samurai class in japan was one of the higher classes
- 武士層は日本の比較的高い階級
- 1900s - 1960s judo in the UK was also practiced by the upper classes of English society
- 1900年代から1960年代、イギリスにおける柔道もまた、上流階級の人々によって好まれた。



# Koizumi Gunji saw judo as a budo

- He encouraged the study of other budo such as ikebana, naginata, aikido and kendo.
- 小泉軍治は、柔道以外にも、生け花、なぎなた、合気道、剣道といった武芸の習得を推奨した。
- He was an artist of urushi.
- 小泉は、漆器芸術家であった。
- Some of his work is in the Victoria and Albert Museum in London.
- 彼の作品は、ロンドンの、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館に展示されている。



# Manners and etiquette were important in the Budokwai

- Koizumi followed the bushido code when living in the west
- 小泉は、武士道の精神に従って、ヨーロッパで生活をした。
- This attitude was taken up by his pupils eg. Trevor Leggett.
- この規律は、トレバー・レゲット等の彼の生徒たちによって受け継がれた。
- Many pupils from the English society leisured classes
- 彼の生徒の多くは、イギリスの有閑階級の人々であった。
- English Gentlemen, with a strong sense of manners
- 英国紳士は、マナーに対しての感覚意識をもっている。



Street Salutation.

# Trevor Leggett

- British Judo Association  
9<sup>th</sup> Dan
- Kodokan 6<sup>th</sup> Dan
- Japan Shogi Fed 5<sup>th</sup> Dan
- Author 30 books
- 30冊の本を執筆
- 1984 Japanese Order of  
Sacred Treasure





# The English Gentleman



- Historically represented the king in a region.
- 歴史的に、英国紳士は各地域の国王の使臣であった。
- Loyalty = land & large houses.
- 忠誠の報酬は土地や家であった。
- Carried swords and had a sense of honour.
- 剣を持ち、誇りを持っていた。
- A dispute would have to be settled by a duel.
- 争い事は、決闘によって決着をつけられることもあった。
- Originally by fencing with swords.
- 当初は、剣(フェンシング)によって行われていた。
- After the introduction of the gun, the duel was conducted by pistols at dawn.
- 後に拳銃が導入された。



THE DUEL. — or CHARLEY leaping for a POP.

# The upper classes

- Late 1800s Queen Victoria time. Had more money and more leisure time than the lower classes
- 1800年代後期ヴィクトリア朝時代、上流階級の人々は、下級階級に比べ、裕福で、娯楽に費やす時間もあつた。
- Spend time in the music halls.
- 劇場に行く時間もあつた。
- Had time to join societies eg. The Budokwai.
- 武道会のような集まりに参加することが出来た。
- Koizumi teaching to the English Gentlemen, manners were normal.
- 小泉の教えるマナーの感覚は、英国紳士にとって受け入れられやすかつた。

# The samurai in Japan

- A fighting class, kill a man with a single cut
- 武士は、人を刀で切ることができた。
- Because of these combat skills they were treated with respect
- 剣の腕が立つ者には、敬意がはらわれた。
- If they offended another samurai or lost face they would probably die
- 武士は、他の武士に敬意を表さなかったり面目を潰すと、時には命を落とすこともあった。
- Needed a strong code of manners to govern behaviour and ensure survival.
- 行動を取り決める強いマナーの規律を持つことは、生き残る術でもあった。



# The modern world of international sport judo

- Today, best judo players know their opponents can throw them if they are not in top condition
- 今日、選手は最高のコンディションで試合に臨まなければ、いつでも投げられる可能性があることをわかっている。
- There is a sense of respect amongst high level competitors
- 高いレベルで闘う選手の間には、尊敬の念が存在する。
- This respect leads to a code of manners both on and off the mat
- この尊敬の念は畳の上のみならず、畳を下りても、マナーの規律をもたらす。

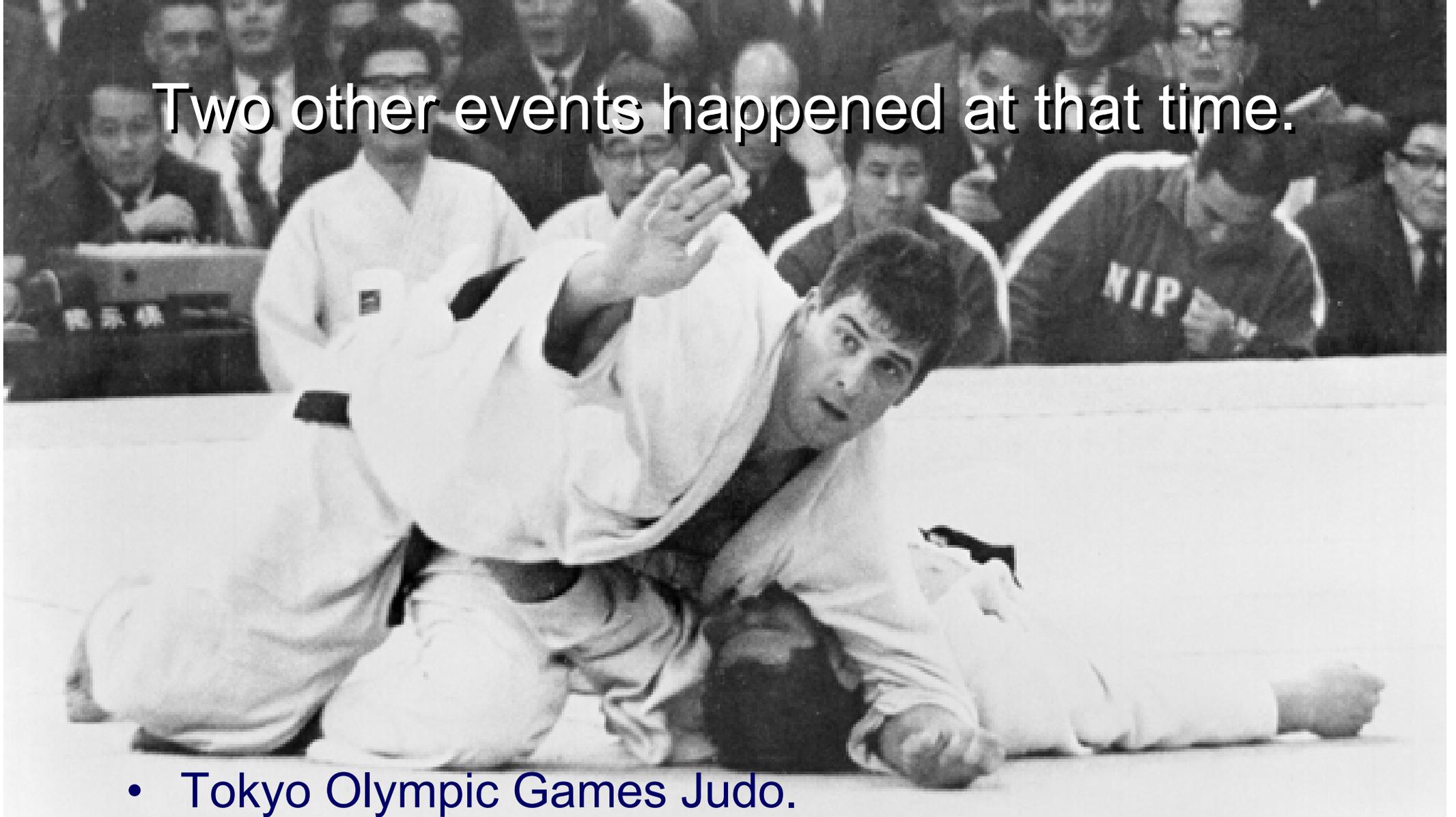
# judo men

- They greet each other with utmost respect and display of good manners
- 柔道家は、お互いに最高の敬意を払っており、また良いマナーを見せている。
- If players have not had the same hard training their sense of respect is not so acute
- 激しい練習をしていなければ、その尊敬の意識は磨かれていかない。
- They do not usually display the same level of manners in their daily life
- そのような選手の普段の生活の中では、レベルの高いマナーを見ることはできない。

# Changes in the 1960s

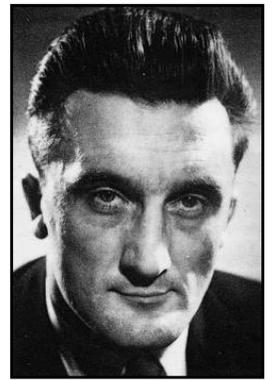
- 1965 Koizumi committed suicide
- 小泉は、自ら命を絶った。
- “I should take a long journey for which no return ticket is issued.” (Koizumi suicide note)
- Trevor Leggett stepped back from the daily training.
- トレバー・レゲットも、練習の場から、徐々に身を引いていった。
- Influx of members from lower social classes.
- 労働者階級の人々の入会が殺到した。
- These new members no longer had the guidance of a Japanese artist who had a lifelong mission to disseminate the principles of budo.
- これらの新たな入会者には、生涯を通して武道の本質を究めるといふ、日本的芸術家としての手本となるものが、もはやなかった。

Two other events happened at that time.



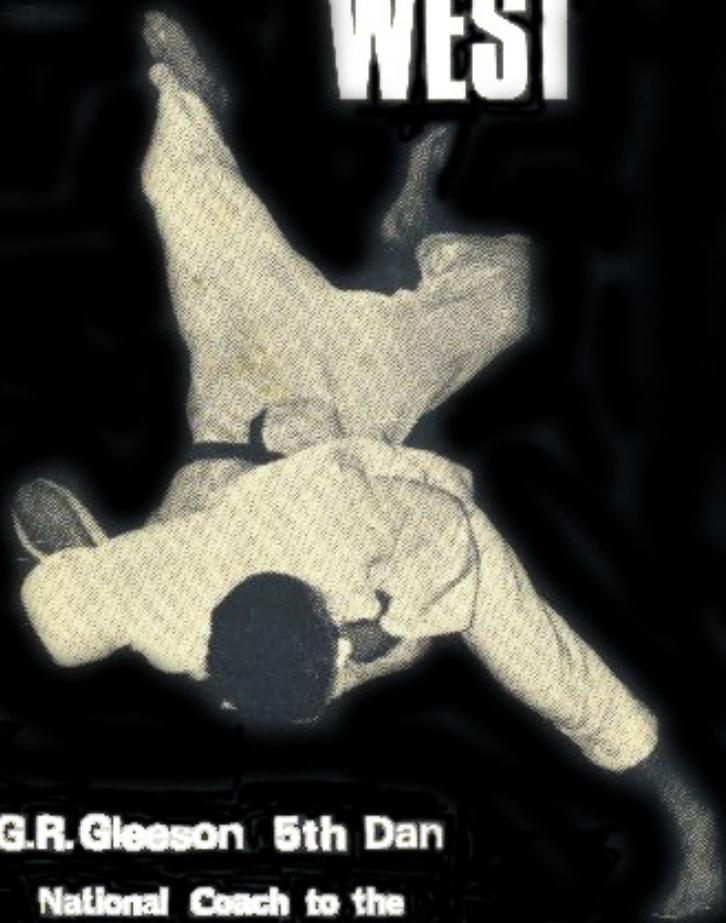
- Tokyo Olympic Games Judo.
- Geesink Victory - Europeans think not everything Japanese needs to be held in such high regard.
- ヘーシンクの勝利により、ヨーロッパ人は、日本柔道のすべてにおいて、それほどまでに高い敬意を示す必要はないと考えられるようになっていった。

# Two other events happened at that time.



- British Government new Sports Council to distribute funding for sport
- イギリス政府のスポーツ機関は、スポーツに資金提供をした。
- National Coach for judo, Mr Geoff Gleeson
- ジェフ・グリーソンを、柔道のナショナルコーチとして指名した。
- Mr Gleeson studied at the Kodokan but thought that judo needed to be westernised for a new audience
- グリーソン氏は、講道館で柔道を学んだにも関わらず、新たな観衆のためにも、柔道を西洋化する必要があると考えた。
- This philosophy is in his book, “Judo for the West”
- この哲学は、彼の著書『Judo for the West』(1967)の中に見られる。

# JUDO FOR THE WEST



**G.R. Gleeson 5th Dan**

**National Coach to the  
British Judo Association**

# London in the 1960s

- Budo etiquette were seen as the Japanese part of judo, perhaps not required in London in the swinging sixties.
- 武道エチケットは、柔道の日本的な部分として見なされ、流行の先端を行っていた60年代のロンドンでは、蔑ろにされていたのかもしれない。
- Shift towards viewing judo as a sport rather than a budo, promoted by the Sports Council in England,
- イギリスのスポーツ機関の動きにより、柔道は、武道よりもスポーツとして見られるように変化していった。
- Also by the International Judo Federation, trying to reinstate judo in the 1972 Munich Olympic Games
- また、国際柔道協会(IJF)も、1972年のミュンヘンオリンピックで柔道を競技種目に戻そうとしていた。
- IJF President, Englishman, Charles Palmer.

# Charles Palmer

- 1951 Went to Japan studied Judo for 4 years working at the British Embassy in Tokyo.
- 1951年から四年間日本で柔道を学び、英国大使館で働く
- Special student at the Kodokan. 1953.
- International Judo Federation President 1965-1980



# Breakaway Organisation

- 1950s, a group broke away from the Budokwai dominated British Judo Association (BJA) to form a rival organization, British Judo Council (BJC), under the leadership of Otani Matsutarō.
- 1950年代、BJAによって支配されていた武道会と決別し、大谷松太郎の指揮のもと、ライバル組織となるBJCが立ち上げられた。
- The differences between the organisations started to polarize,
- 両組織の違いは、両極化していった。
- British Judo Association interested in sport judo
- BJAは、柔道のスポーツ化に前向きであった。
- British Judo Council, focused on the more traditional budo elements of judo, emphasizing the etiquette and a more Japanese fighting style.
- BJCは、伝統的な柔道に焦点を当て、日本の柔道スタイルとエチケットに重きを置いた。

- 2003 BJC affiliated with the BJA, two organizations still retain their own distinctive ethos.
- 2003年、BJCはBJAと提携したものの、未だに二つの組織は、独自の体制を維持している。
- The strongest players join the BJA for international competitive opportunities
- 国際大会に参加する強い選手たちは、BJAに加入している。
- BJC focus on etiquette and development of kata.
- BJCはエチケットや、形の習得に力を入れている。



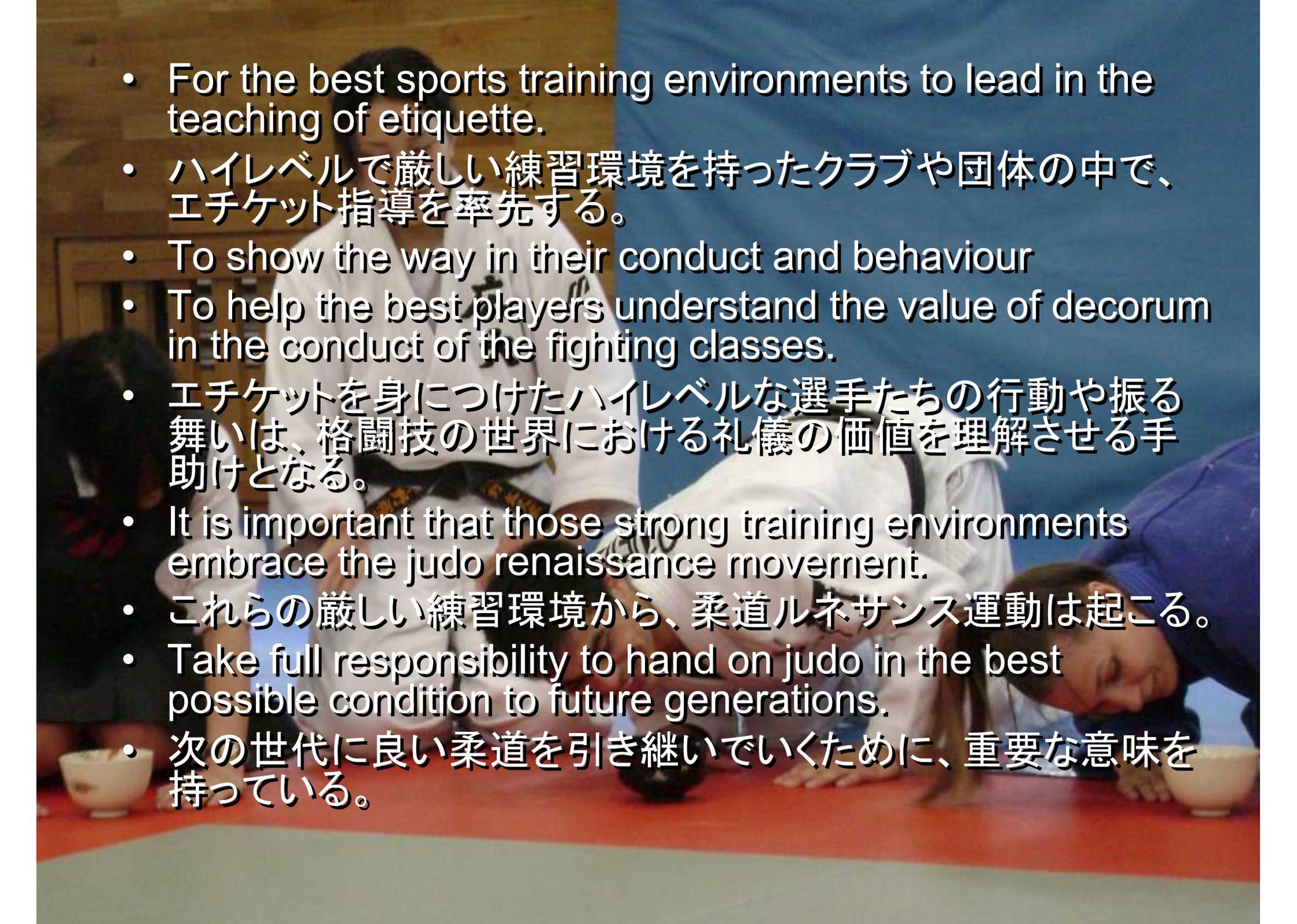
# budo manners and etiquette

- Founded on a respect for your fellow samurai for his fighting ability and the hardship he has endured
- 武士が苦難に耐えてきたことや、彼らの戦いの手腕に対する尊敬の念に由来する。
- Best fighting judoka in England based in the BJA
- イギリスの中の最も強い選手はBJAに加入。
- Best teachers of etiquette based in the BJC
- エチケットを教える優れた指導者は、BJCに存在する。
- A sense of emptiness about the teaching of manners in England
- イギリスにおいて、マナーを唱えることに関しては、指導が不十分である。

- There are hard training environments in the UK where there is respect amongst the players but the teaching of manners is poor.
- イギリスでは、厳しい練習環境があり、そこには選手間の深い尊敬の念が存在するが、マナーの指導は乏しい。
- You can also find individual teachers whose understanding of budo etiquette is very deep.
- But the players they work with have not undergone the hard training at a high technical level to fully appreciate the respect that underpins those manners.
- 武道エチケットに関して深い理解を持った指導者はいるものの、彼らの生徒が、マナーにつながる尊敬の念を抱くまでの、厳しい練習やレベルの高さを持っているかといえ、そうではない。

# The way forward for the UK



- 
- For the best sports training environments to lead in the teaching of etiquette.
  - ハイレベルで厳しい練習環境を持ったクラブや団体の中で、エチケット指導を率先する。
  - To show the way in their conduct and behaviour
  - To help the best players understand the value of decorum in the conduct of the fighting classes.
  - エチケットを身につけたハイレベルな選手たちの行動や振る舞いは、格闘技の世界における礼儀の価値を理解させる手助けとなる。
  - It is important that those strong training environments embrace the judo renaissance movement.
  - これらの厳しい練習環境から、柔道ルネサンス運動は起こる。
  - Take full responsibility to hand on judo in the best possible condition to future generations.
  - 次の世代に良い柔道を引き継いでいくために、重要な意味を持っている。



[www.judoresearch.org](http://www.judoresearch.org)



Thank you



# www.judoresearch.org/jp/welcomejp

International Association of Judo Researchers - Windows Internet Explorer

http://www.judoresearch.org/jp/welcomejp.htm

File Edit View Favorites Tools Help

Mail :: Inbox (1497) International Association ... X

text view + ^ - 国際柔道研究者会 (IAJR) ホームページ 柔道教育ソリダリティー パース大学スポーツ 日本語 English

国際柔道研究者会 (IAJR)

- ホームページ
- IAJRについて
- ニュース
- 研究
- データベース
- 会員登録
- カレンダー
- 奨学制度
- お問い合わせ

ようこそ

国際柔道研究者会 (IAJR) のホームページへ

私達のミッションは

柔道に関する研究及び教育を支援することにより、柔道を通しての国際間、文化間の相互理解、協力、交流を通して深める世界平和を促進することを目的としています

IAJRでは、研究者間のネットワーク構築、情報意見交換を進めるために、研究者登録を行っています。登録フォームはこちらから入手できます。登録フォームをご記入後、e-mailにて **Diego Scardone** (事務局担当者) までご送付ください。

第5回国際柔道連盟研究シンポジウム  
2007年リオデジャネイロ(ブラジル)にて



特定非営利活動法人  
柔道教育ソリダリティー  
Solidarity of International JUDO Education



UNIVERSITY OF BATH

Related links

- 国際柔道連盟
- 柔道教育ソリダリティー
- パース大学スポーツ

Contact us:

telfax: +44 (0) 1225 383548  
email: <mailto:ds288@bath.ac.uk>

Waiting for http://www.judoresearch.org/jp/welcomejp.htm...

start Wireless Network Co... International Associa... Microsoft PowerPoint ... Google 100% 15:08